

# 高校生の「たまり場」作戦・・進行中

所属：大正大学 地域構想研究所 阿南支局

氏名：鈴江 省吾

## はじめに

2050年には東京以外の全ての都道府県で人口が今より減り、うち2割は30%以上減るといふ推計が国立社会保障・人口問題研究所から発表され、徳島県でも現在の72万人から33.2%減少して48万になると予測されている。まさに、現在の移住政策から脱皮して、人口減少社会を肯定した持続可能な社会システムの根本的な変革が必要だと感じる。

さて、私が関わる移住支援団体が2024年4月に新しい地域おこし協力隊員を受け入れる。彼は現役大学卒業生で、「就職の内定をもらったが自分のやりたいことができない気がする・・・会社の一員ではなく、3年間で自分の可能性を試してみたい」と語る。「そんな甘い社会じゃない」と言いたいが、清々しくもあり、羨ましくもある。人生で最も新鮮な世代の彼が阿南市を選んでくれたことは素直に嬉しく、責任を感じるとともに、「人が少ないからこそ自分が主役になれる」楽しさを知ってほしい。

支局が開設されて7年、自治体や関係機関、地域の人たちの支援をいただき、活動の輪が広がってきたことを実感しつつ一年の歩みを報告したい。

## 地域との連携活動

本年も大学地域創生ソリューションパートナーである（株）すだっち阿南と一体となって、阿南市との連携協定に基づく受託研究事業を柱に様々な活動を展開した。

### ① 関係人口を核としたシティプロモーションの検証

地域構想研究所の中島ゆき主任研究員と連携して、高校の地域体験学習がふるさとへの愛着や将来の地元回帰に好影響を与えるという仮説のもと、市内5校を対象にアンケートを実施し約700人から回答を得た。設問は阿南市の移住担当や各校教員とも協議を重ね、高校生への個別ヒアリングも実施。集計・分析の結果、仮説を実証する成果があった。

一方、阿南市の人や企業、イベントや街の話題などを幅広く発信するために開設したWEBサイト「阿南人」は、SNS発信を強化したことで、アクセス、フォロワー数とも大幅に増加。特に、地域実習阿南班の学生が制作した商店街の店舗を紹介する動画は大きな反響を呼び、総リーチ数は1万回を超えた。

2023.11

### 地域と進路に関するアンケート調査のお願い

阿南市役所ふるさと未来課  
大正大学地域構想研究所阿南支局



あなまちマルシェ 高校生企画チーム

阿南市の高校生へ、あなたの地域とのつながりや就業に関する意識を教えてください。

阿南市では、市内の高校生全員の意識や考えに耳を傾けたいと思っています。  
授業の一環として考えることも増えてきた地域との関わり、そして将来の職業や生活に対する意識・関心そうしたものを  
知ることで、皆さんにとってのより良い阿南市を一緒に創っていきたく考えています。

▶皆さんの声が、阿南市の政策やまちづくりの形成に繋がりますので、是非、自由なご意見を出してください！  
(今回のアンケートは進路を控えた2年・3年生及び高専/専攻科4・5年生を対象としています)

【調査の方法】

- 所要時間：約10～15分
- 回答方法：右記のQRコードまたはURLを使用し回答してください。  
アンケートURL | <https://enquete.cc/q/StudentSurvey>
- 報告書：集計結果は、個人が特定できない形で市のホームページにて公表します。



👉こちらから回答

## ② 定住促進や若者の人材育成



昨年に続いて、高校生と地域をつなぐ活動を積極的に支援した。その一つが商店街の活性化イベント「あなんまちマルシェ」で、店主たちと高校生の企画委員を募集。応募者7人が3チームに分かれてマルシェを盛り上げる企画を自分たちで考えて実施。高校生は自分のアイデアが実現することで、これまでのボランティアでは味わえないやりがいを感じたようで、終了後もメンバーのつながりが継続し、支局を中心に高校生のサークルが誕生

しつつある。さらに、文化祭以外でバンドやダンスの発表機会がないとの相談を受け、マルシェで高校生ライブを開催。今では各地のイベントから声がかかるダンスチームもある。また、高校訪問がきっかけで本学職員の土屋光（阿南実習1期生）さんが阿南光高校で出前授業を行い、自身が感じた阿南の魅力や大正大学の取組を発表した。

## ③ SDGs の推進

阿南市 SUP タウンプロジェクトと連動して、淡島海岸の環境調査、清掃、特定外来種ナルトサワギクの駆除を行った。また、「ゼロカーボンあなん」の意識を高めるため、市職員対象の SDGs・脱炭素セミナーを開催したほか、SDGs の市民活動を紹介するパンフレットを制作した。

## ④ 地域循環共生圏の推進

環境と経済の好循環を実践する「チャレンジ都市阿南創造事業」で、事業を評価する検討委員会や採択者の伴走型フォローアップを担当し、地域構想研究所の岩浅有記准教授にもアドバイザーを務めていただいた。今回は自然エネルギーや食品ロス、エコ、環境改良を実践する「キッチンカー、マフィンの製造、竹炭の新たな活用」などの事業で現地ヒアリングを重ねてアドバイスをを行った。



## ⑤ 県南キャンパス事業



「四国の右下」若者創生協議会の補助金を活用し、実習での取材や動画配信をまとめた冊子「阿南人」を制作したほか、ガモールの学生スタッフと阿南市の産業イベント「活竹祭」に出店し、連携自治体の特産品や大正大学の取組を多くの来場者に知ってもらうことができた。

## ⑥ その他

**学ぶ 27 まちづくりを探究しよう!**

地域のことをもっと知りたい! 関わってみたい! 大正大学生の冊子「阿南人」を題材にまちづくりのイベント企画を一緒に考えます。(講師: 鈴江省吾)

**7/27(木) 8/24(木)**  
15:00~17:00 15:00~17:00



○定員/各5名 ○対象/中学3年生~高校3年生

**株式会社すだっち阿南**  
TEL **0884-49-3899**

- 申込 電話
- 受付 9:00~17:00
- 土曜・日曜・祝日
- 富岡町今福寺42-1

少人数のセミナーで事業所を知ってもらう「まちゼミ」で中高生とのワークショップや小学校での出前授業、移住支援団体と連携したモニターツアー、地域おこし協力隊のサポート、商工会議所との意見交換会など多面的に活動を展開した。大学関係では、地域実習や人材育成塾等での市役所との連絡調整のほか、3年生の地域実習も積極的に支援。4人中3人が2年連続の阿南実習となり、お遍路、交流の場づくり、野球のまち、竹の商品開発など、地域との交流が一層深まった実習となった。

### 今後の活動方針

高校生との関わりを重視してきた支局に呼応したかのように、近年、阿南駅前や商店街の賑わい、さらに将来のまちづくりの担い手として高校生にかかる周囲の期待が高まっている。

そして、その可能性は支局に集いはじめた高校生たちが証明する。そこでさらに支局を「自習・体験交流・まちネタ・ボランティア・進路・遊び・・・」ができる「すだっち倶楽部(仮称)」として稼働したいとルール作りに着手。

継続事業と並行しながら、「地域と、活動したい高校生をつなぐプラットフォーム」を目指して取り組んでみたいと考えている。

